

白河市の年表

年号(西暦)	こ と が ら
300年ごろ	弥生時代のおわりごろの天王山遺跡(久田野)から土器が出土。
大化2年(646年)	陸奥(むつ)の国、白河郡がおかれる。
神亀5年(799年)	白河軍団がおかれる。このころ借宿にお寺がたてられた。(借宿廃寺)
延暦18年(799年)	白河・菊多に関守60人がおかれる。
大治元年(1126年)	(藤原清衡が白河の関から外が浜まで、1丁仏をたてたと伝えられる。)
文治5年(1189年)	源頼朝が白河の関を通る。
康元元年(1256年)	結城祐広がからめ城(白川城)に住む。
興国元年(1340年)	結城親朝が小峰城をつくる。
寛正元年(1460年)	(飯尾宗祇が白河の関で連歌を読んだ一宗祇もどし。)
天正18年(1590年)	豊臣秀吉によって結城氏がほろび、蒲生氏郷の領地になる。
寛永4年(1627年)	丹波長重が白河藩10万石の領主となる。
9年(1632年)	長重、小峰城をつくりなおし、今の石垣をつくる。
20年(1643年)	松平忠次が白河藩14万石の領主となる。
憲安2年(1649年)	本田忠義が白河藩12万石の領主となる。
天和元年(1681年)	松平忠弘が白河藩15万石の領主となる。
天録2年(1689年)	松尾芭蕉が白河の関をたずねる。
5年(1692年)	松平直矩が白河藩15万石の領主となる。
寛保2年(1742年)	松平定賢が白河藩11万石の領主となる。
天明3年(1783年)	松平定信が白河藩の殿様になる。大ききん。
5年(1787年)	定信老中になる。(1793年まで。)
享和元年(1801年)	南湖ができる。
文政6年(1823年)	阿部正権が白河藩11万2千石の領主となる。
元治元年(1864年)	阿部正外老中になる。(1865年まで。)
慶応2年(1866年)	白河藩がなくなり幕府領となる。
4年(1868年)	戊辰戦争、白河口の戦い。小峰城がやける。
明治2年(1869年)	白河県の官衛白河城跡にできる。(9郡23万8千石)
4年(1871年)	二本松県になり、その後福島県になる。
5年(1872年)	郵便局ができる。このころ人力車はしる。
7年(1874年)	お寺をかりて中町、桜町、新町に小学校ができる。電信局(電報)できる。
9年(1876年)	白河町ができる。(戸長制)1,566戸 8,651人。
12年(1879年)	道場小路に郡役所ができる。
16年(1883年)	郡役所たてなおし。(火災のため。)
17年(1884年)	白河町役場ができる。(中町)郵便馬白河～福島間走る。(明治20年まで。)
18年(1885年)	東京から白河まで鉄道がつながる。
19年(1886年)	白河小学校ができる 白棚鉄道止まる。
20年(1889年)	鉄道郡山までのびる 白河駅が十軒店にできる。
明治22年(1891年)	町村制のしくみができて、白河町となる。1,902戸 10,916人
30年(1899年)	白河町に初めて銀行ができる。
43年(1910年)	電話が開通する60戸。
44年(1911年)	白河町に初めて電灯がつく。
45年(1912年)	白河小学校が白一小、白二小、白三小に分かれる。
大正3年(1914年)	芝居・映画館がたつ。
5年(1916年)	白河・棚倉間に鉄道が通る。(白棚線)このころタクシーはしる。
6年(1917年)	白坂が駅になる。
8年(1919年)	久田野が駅になる。
10年(1921年)	白河駅が今のところにひっこす。